



百人一首大会

二期の補習最終日に、記念ホールで百人一首大会を実施しました。現在暗記している札は九十二首。これまでの大会で最多です。三対三の源平合戦で白熱した戦いを繰り広げました。

ただ、今回残念だったのは、暗唱テストを完遂していない人がたくさんいたこと。隣の視聴覚室で最後までチャレンジしてもらいましたが、それでも四人が残ってしまいました。

こういうテストは、日々の積み重ねがものを言います。もちろん、得手不得手・個人差はあります。でも、じゃあ苦手な人は、とことんまで努力しましたか？ ……この答えに、「ハイ！」と胸を張って答えられる人はいないのではないかと思っています。

二年生もあと一学期で終了します。与えられたことを完遂するのは当たり前。与えられていないことにまで心を配って動く人を、私たちは求めています。



百人一首大会 結果 (枚数差の大きいチームから紹介)

- ①日高莉子・立山晟・比江島優人 (37枚差)
- ②藤原なごみ・富永美羽・眞田柚 (33枚差)
- ③佐々木慈・丸田綾音・加藤慧 (23枚差)
- ④山本優羽・池田直矢・曾我拳士郎 (22枚差)
- ⑤松下岳士朗・川口埜々華・今村祐翔 (20枚差)



今年目標

奥池 舞台出演・早く帰る・要領よく行動する
高崎 本を読む・新しい趣味を見つける・仕事も子育ても全力
狭間 ウクレレ上達・早く帰る・中三の指導徹底

おわび 前回(第6号)の通信で、「修学旅行を漢字一字で表してみよう！」の作品を紹介しましたが、「他にはこんな字がありました」の中に、大事な大事な「恋」を掲載するのを忘れていました。「書いたのに！」と怒っていた人、ごめんなさいね。

うっすらと輝(ひび)の入りたる子の頬に
軟膏を塗る大寒の朝

「今日は何をしようかな」

高崎伊緒里

「今日は何をしようかな」
改めまして、あけましておめでとうございませう。心と体はお正月モードから日常に戻ったでしょうか。
私が中学生の授業に行くようになって、今でもあまり思い出すこともなかった自分の中学時代はどうだったかなあと振り返ることが増えました。

私の中二の今頃は将来に関わる大きな決断を迫られることもなく、上級生が引退した部活で楽しく鬼ごっこをしていた気がします。(水泳部で、冬は体力づくりと称してそんなことでした。スイミングスクールには通っていましたよ。)とにかく、自分や周りに対しても、責任を背負って何かをするということがあまりなかったのが中二でした。こんな私ですが、(今でも)良くも悪くも周囲に影響を受けるタイプです。生徒会立候補、塾行くこと、そして中三で選ぶ高校も、一〇〇さんがそれを選ぶなら私もそうしようかと決断したよいうなことがいくつもあります。もちろん、選んだ先で苦しいこともありましたが、選択したのは自分だという意識があったので後悔はしていません。

日常の中にも「選択」はたくさんあります。次に何をしようか、明日は何を食べようか……。環境や誰かのせいにするのではなく、最終的に自分で選択したことだと思えば、後悔ない日々が送れるのではないのでしょうか。

一歳半になる息子も「選択」をしながら生活しています。目の前におやつとでもちやががあればまずおやつを選びます。でもこれは「欲」のままです。まだ先を考えるという事はできないので、大人が導いてあげることがありますが、中学生のみならず……。

今年の中三、日々自分の「選択」に責任をもつて生活してみようか？